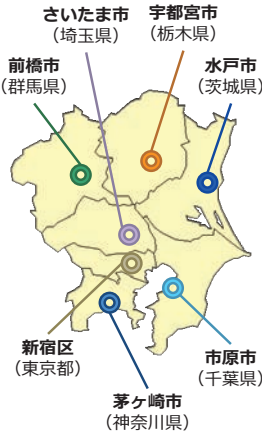
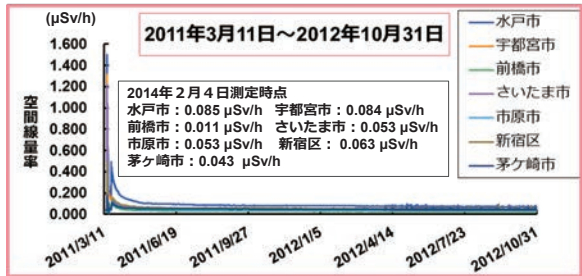
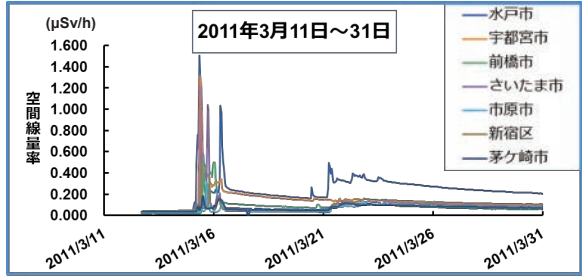


空間線量率の
時空間分布

関東地方における空間線量率の経時変化



μSv/h : マイクロシーベルト/時



文部科学省環境放射能水準調査結果、環境放射線データベース*より作成 ※：現在は原子力規制委員会が担当

関東地方の都県のモニタリングポストの所在地は、東京電力福島第一原子力発電所から近い順に、水戸市 (130km)、宇都宮市 (140km)、前橋市 (210km)、さいたま市 (210km)、新宿区 (230km)、市原市 (230km)、茅ヶ崎市 (270km) となっています。

各地点の空間線量率の推移を見ると、関東地方には平成 23 年 3 月 15 日から 22 日の 1 週間の間に放射性物質が移動してきたものと考えられます。その後、空間線量率が事故前のレベルに下がらなかった理由としては、地上に放射性物質が降下し、沈着したことが考えられます。

なお空間線量率のデータは、平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月は環境放射線データベースのデータを、平成 23 年 3 月と平成 24 年 4 月以降は環境放射能水準調査結果を用いています。

(関連ページ：下巻 P21、「現在の空間線量率の状況」)

本資料への収録日：平成 25 年 3 月 31 日

改訂日：平成 28 年 1 月 18 日